



地域支援部だより

〒781-0010 高知県四万十市古津賀 3091
高知県立中村特別支援学校 地域支援部
Tel.0880-34-1511 Fax0880-34-1625



R4. 第10号

暦の上では立春を迎え、春も始まりですが、まだまだ寒い日が続いていますね。感染症に加え、花粉も飛び出し、体調管理にはより気を付けなくてはいけない季節ですが、穏やかな春を想像しながら、乗り越えていきたいものですね。

学習会

1月23日(月)、地域支援部主催の第3回校内学習会を行いました。今回は「ソーシャルスキルトレーニングについて」というテーマでした。ソーシャルスキルトレーニングの指導のポイントについて参加者全体で学習し、その後、グループに分かれて事例検討を行い、支援方法について一緒に考えました。

学習会を終えての参加者の感想

- ・SSTのイメージをくっきりできました。今までぼやっとしていたので。
- ・SSTは決まったパターンがあると思っていて、似たような取組はそれなりにしていたのですが、ずっともどきとっていました。でも、いろいろなパターンがあっていいということを知って、少し自信がもてました。



今回の学習会で活用した参考文献です。興味のある方は読んでみてはいかがでしょうか。

- ・「高機能自閉症・アスペルガー障害・ADHD・LDの子のSSTの進め方」
(田中和代・岩佐亜紀 黎明書房 2008)
- ・「特別支援教育をサポートする図解よくわかるソーシャルスキルトレーニング(SST) 実例集」(上野一彦・岡田智・森村美和子・中村敏秀 ナツメ社)
- ・「特別支援教育をサポートするソーシャルスキルトレーニング(SST) 実践教材集」
(上野一彦・中村敏秀・森村美和子・岡田克己・山下公司 ナツメ社)



ソーシャルストーリーとソーシャルナラティブ

自閉症スペクトラムの子どもたちへのソーシャルスキルの支援方法を学習する際に、この2つの言葉に出会い混乱したことはありませんか？

ソーシャルストーリーとはキャロル・グレイ氏が考案した自閉症スペクトラムの子どもたちに対するソーシャルスキルの支援方法で、世の中の暗黙のルールやコミュニケーションスキルについて簡単な文章かつ読み手を肯定する文体で書かれたものです。それに対して自閉症スペクトラムの子どもたちへの支援の実践の中では、ソーシャルナラティブという言葉もよく見られます。実践の内容などを見ていると、ほぼ一緒なのですが・・・これはソーシャルストーリーという名称は考案者のキャロル・グレイ氏が商標登録しているので、公認されないと使用できないという事情があるようです。なので、内容的にはあまり違いはないらしいです。

ソーシャルナラティブを使用しての実践例で具体的で分かりやすい文献がありましたので、ご紹介します。興味のある方は読んでみてください。(インターネットで検索できます。)

「ソーシャルナラティブをベースにした自閉症スペクトラム生徒に対するSSTの試み—自立活動の個別のねらいに即した指導実践を通して—」(大友 浩 2019)

